

社会認識の質的な成長を評価する問題の作成

蒼下和敬（長崎県立長崎東高等学校）

宅島大堯（長崎県立猶興館高等学校）

福田正弘（教育学部初等教育講座）

1. はじめに

社会系教科の授業法は、数多くの研究や実践がなされており、実際の教科指導の現場においても実に多様な授業が展開されている。しかしながら、それらの指導法研究の多くは、単に指導案のみをシミュレーションしていたり、単発の実験授業を実施して期待される学力が形成されたかどうかを見ているのみに留まり、実際にその指導法を継続して実践した場合、子どもはどのような学力を形成するのか検討されているものはほとんど見られない。

筆者らは、特定の指導法に依拠して継続的な指導を続けた場合、子どもはどのような学力を形成するのかを検討するため、以下のような評価問題を作成し、指導法の異なる長崎県内6校の承諾を得た上で、各学校の試験結果を比較することで、それぞれの指導法が保証している学力や課題点を明らかにした。その研究の考察及び結果について詳しく述べたものは別稿で発表する予定である（本稿末尾を参照されたい）。本稿では、その研究のための基礎資料として作成された統一評価問題の概要及び試験問題の縮小版を掲載する。

2. 統一評価試験問題の概要

1. 対象生徒…長崎県内の高等学校2年生(地理B選択受講生徒)
2. 参加校…単純参加学校総数：長崎県内の県立高等学校9校(605人)
学校間比較承諾校数：上記のうち6校(492人)
3. 実施時期…2009年9月頃(各校が出題範囲を履修完了した段階で受験)
4. 試験内容…自然環境(地形全般)
大学入試センター試験に出題傾向を模す(別稿(2009a)で研究)
5. 問題数…50問(50問×2点)
6. 試験時間…60分を標準とする
7. 問題様式…大学センター試験に模す(冊子形式。合計28ページ)
8. 解答形式…客観式・多肢選択式
9. 個人情報…受験番号のみをIDとした無記名方式。解答用紙は処理後に返却し、研究終了後には全処理データを削除(既に完了している)。

3. 統一評価問題の内容

次ページ以降には、実際に実施した評価問題の内容を示す。なお、問題冊子はB5サイズ28頁で構成しているが、本稿では紙幅制約上約25%に縮小している。

地理B 試験問題

(2009.09 実施：地形版)



写真：テーブルマウンテンで永遠の愛を誓う新郎新婦(南アフリカ)

■注意事項

- ①この試験は大問5部で構成されている。落丁・乱丁は速やかに申し出ること。
- ②解答用紙は試験終了後に回収されるので、解答冊子にもメモを残すこと。
- ③試験終了後の最初の授業では、この冊子を持参すること。
- ④その他、授業担当教員の指示をよく聞いて解答すること。

2年 組 番 名前

[1]次の文はある高校の地理の先生と生徒の会話の内容である。
この文を読み、以下の問いに答えよ。

生徒：先生、この前授業で勉強した「(A)」のことがテレビで扱われていました！
先生：私も見ていたよ。なぜ彼が大陸移動説を提唱したのかについてだったね。
生徒：(A)はもともと植物学者だったんですね。
先生：そう、彼は最初は、(a)全く離れた3つの大陸の砂漠で、ほぼ同時期に同じ種類の花を咲かせる植物があった、「なぜ、こんなに離れているのに、こんなに形や性質が似ているんだろう」と考え始めたんだ。
生徒：この「なぜ」がどうして大陸移動説になるんですか。
先生：彼は、大西洋が中心となる欧米では一般的な地図をみて、それぞれの大陸の海岸線同士が接合することに気がついたんだ。そして、砂漠に咲く花の生息域も、ちようど一か所に集まることに気がついた。そこから彼は、「かつては大陸は一つで、現在でも動いている」と言い始めた。
生徒：でも、どうして大陸は動いているんですか。
先生：そこが彼の最大の悩みだったんだ。彼はうまくそれを説明することができず、これが科学的に解明されたのは、彼の死後数十年たった 1960 年代後半に入ってからなんだよ。
生徒：(b)プレートテクトニクスですね！ちゃんと覚えています。
先生：そうだね、(c)プレートは現在も動き続けていて、世界の地形に大きな影響を及ぼしている。たとえば、世界最高峰のエベレストがあるヒマラヤ山脈の山頂からは、いまでも貝の化石が出てくるけれど、これは、プレート同士がぶつかった衝撃で(d)褶曲を起こしたものだね。
生徒：でも、こんなに強い力が働くんですから、この地域は地震が激しいんですね。
先生：そう、この資料(図1)を見てごらん。
これは、世界の地震多発地帯を示した地図なんだけど、地域的な偏りが見られるよね。同様に、火山活動もこうした地域に多い傾向があるんだ。(e)火山活動も、地域によって災害の中身もだいぶ異なってくるよ。この辺りでは、当然そうした災害を予測して、(f)被害を最小限にとどめる工夫をする必要があるね。また、こうした力をうまく利用すれば、(g)熱エネルギーとして様々な産業に活用することもできる。
生徒：でも先生～、ウラル山脈やアパラチア山脈などは、世界的にも有名な山脈なのに、地震がほとんど発生していませんよ。どうしてですか？
先生：あれ、忘れたのかい？すべての山脈がいつも活発に活動をしているわけではないんだよ。(h)ヒマラヤ山脈やロッキー山脈とウラル山脈やアパラチア山脈は山の様子をすいぶん見た感じが違っていたらどう？
生徒：あ～そうでした。地理はしっかり復習することが大切ですね。

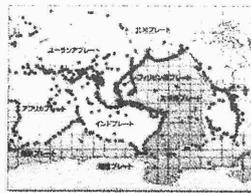


図1 世界の地震多発地帯

問1 会話文中の[A]に該当する科学者は誰か、次の①～⑤から一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[1])

- ①ダーヴィス ②ダーウィン ③ウェゲナー ④トスカネリ ⑤ケッペン

問2 下線部(a)について、3大陸で同時に開花する植物は、「 Gondwana植物」と呼ばれている。このGondwana植物(及びその化石)が見つからないと考えられる現在の大陸を下の図2の①～④から一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[2])

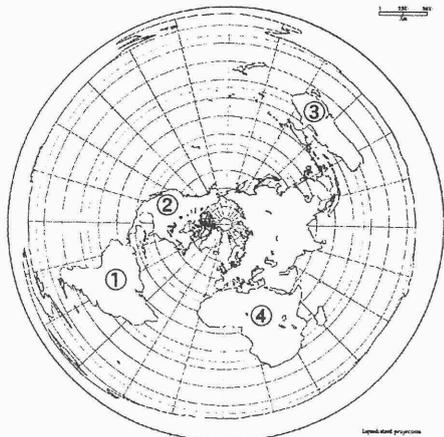


図2

問3 下線部(b)について、プレートテクトニクスについて説明した次の①～④の文のうち、誤っているものを一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[3])

- ①プレートとは、地球表面部を覆う厚さ数十km程度の地殻が、十数枚の板状になっているものをさす。
- ②大陸はプレートの上に浮遊する塊であり、地球の自転とは反対方向に流動する。
- ③プレートの移動は、高温で流動性のあるマンツルの対流に原因がある。
- ④日本の周辺には4枚の大きなプレートが複雑に接し合っている。

問4 下線部(c)について、次の2問を答えよ。

1. プレートの移動は、ハワイ諸島においても確認することができる。ハワイ諸島は、一定の場所でもマグマが吹き上がり形成した火山島が、プレートの移動で徐々に発生して列島状になっている(図3)。



図3

次の図4は、実際のハワイ諸島の地図である。ハワイ諸島を乗せているプレートは、図5の①～⑧のどの方位に移動しているか、もっとも近いものを一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[4])

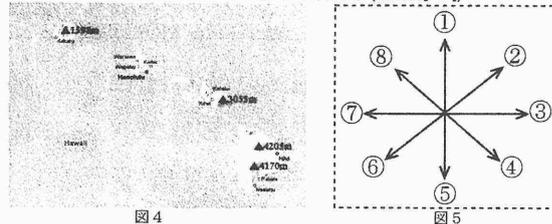
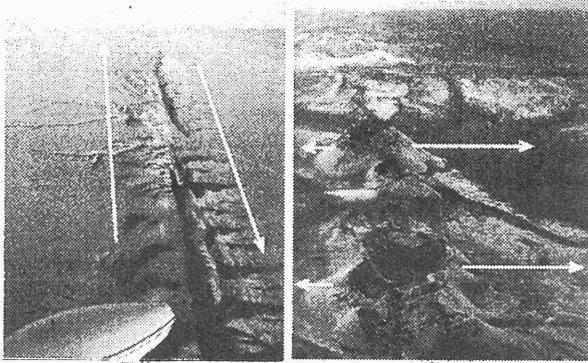


図4

図5

2. 移動するプレート同士が接する境界では、特徴的な地形景観が見られる。
次の写真6・写真7は、プレートの境界部分に見られる景観を上空から写したもので、図中の矢印はそれぞれのプレートの力が加わっている方向を示している。
図8中から、2つの写真と同様の力が動くプレートの境界が見られる地域の組み合わせを一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[5])



	①	②	③	④	⑤	⑥
写真6	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
写真7	エ	オ	カ	エ	オ	カ

- 5 -

問5 下線部(d)について、次の文①～④のなかで、「褶曲」活動について、正しく説明されている文を一つ選び記号で答えよ。(解答欄[6])

- ① 褶曲は、地下の地層もしくは岩盤に力が加わり割れて食い違いが生じた現象をいう。
- ② 標高 6000m を超す高峻な山脈はすべて褶曲活動によって形成されている。
- ③ 褶曲活動が活発な地域の背斜構造の部分は、石油が採れることが多い。
- ④ ヒマラヤ山脈は褶曲活動が活発なため、地震や火山の多発地帯となっている。

問6 下線部(e)について、次の2問に答えよ。

1. 火山活動はマグマが吹き出した溶岩に含まれる二酸化ケイ素(SiO₂)やマグマ自体の温度によって、粘性が異なり、山の形も異なってくる。次の火山A-Cを、粘性の高い順に並べて、①～⑥の記号で一つ答えよ。(解答欄[7])



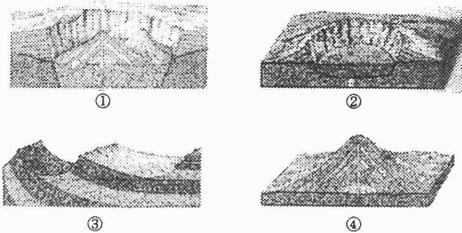
	①	②	③	④	⑤	⑥
高 ↓ 低	A	A	B	B	C	C
	B	C	A	C	A	B
	C	B	C	A	B	A

2. 次の図9は、九州の阿蘇山についての標高データをデジタル処理して立体化したものである。阿蘇山の断面図にもっとも近いものはどれか、次ページの①～④から一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[8])



図9

- 6 -



問7 下線部(f)について、地震や火山などの被害を最小限にとどめるための方法として、適切ではないものを次の①～④から一つ選べ。(解答欄[9])

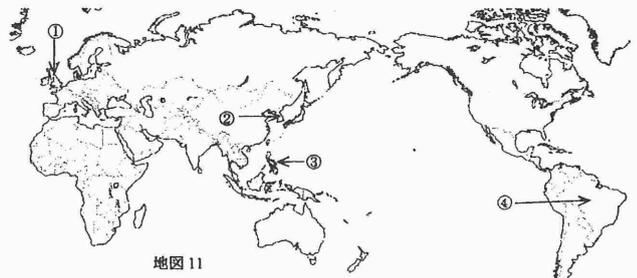
- ① 地震の発生直後、沿岸部にいる場合は、入り江の奥にある漁港などの広場に逃げれば比較的安全である。
- ② どこが安全でどこが危険かを予測したハザードマップの作成と普及を進めることは、災害時の緊急情報の共有に非常に有効である。
- ③ 日本では2007年に「緊急地震速報」システムが開始され、地震が発生する数秒前には警戒速報が流れるようになったが、誤報や遅報など課題もまだ多い。
- ④ 地震の被害を最小限にとどめるためには、家具の転倒防止対策や耐震・制震・免震建築物などを日頃から対策しておくことが大切である。

問8 下線部(g)について、火山の熱エネルギーの活用形態の一つとして、地熱発電が注目されている。次の表10のA-Dは、地図11の①～④の国で発電されている電力構成を示したものである。このうち、地熱発電量の多いAに該当する国は次ページの①～④のどれか、一つ選び記号で答えよ。(解答欄[10])

	A	B	C	D
石炭	28.9	38.0	2.4	38.5
石油	14.8	5.9	3.0	1.3
天然ガス	22.6	18.1	4.4	35.8
地熱	18.4	0.0	0.0	0.0
水力	15.3	0.2	83.2	19.1
原子力	0.0	37.0	3.3	1.2
他	0.0	0.8	3.7	4.1

表10(単位%)

- 7 -



地図11

問9 下線部(h)について、次の写真A-Cは、ロッキー山脈・アパラチア山脈・ラブラドル半島の景観写真であり、図13のあ～うは、3つの地域が活発な造山運動をしていた時期を示している。このうち、アパラチア山脈の景観写真と造山運動が活発な時期を適切に組み合わせたものを①～⑨から一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[11])

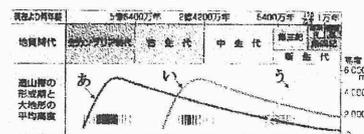
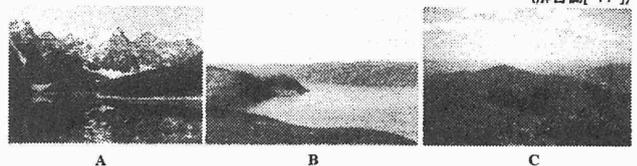


図13

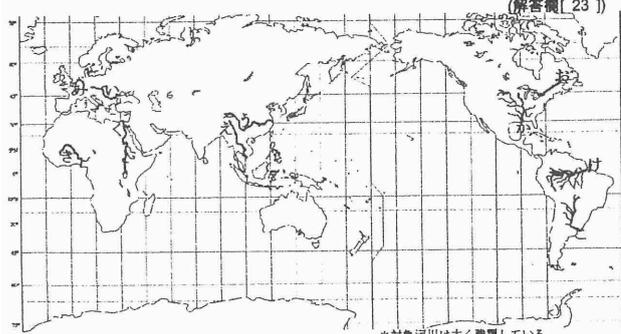
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
写真	A	A	A	B	B	B	C	C	C
変動時期	あ	い	う	あ	い	う	あ	い	う

- 8 -

問1 本文中[A]に該当する適切な語句を一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[22])

- ①津波 ②鉄砲水 ③赤潮 ④液状化 ⑤高潮 ⑥地盤沈下 ⑦塩性化

問2 下線部(a)について、次の地図(図5)で示した規模の大きな河川①~⑩のうち、河口部において三角州が見られないものを二つ選び、選択肢から記号で答えよ。(解答欄[23])



地図5

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
あ	あ	い	い	う	う	え	え	お	お
か	き	く	け	こ	か	き	く	け	こ

問3 下線部(B)について、次の写真(図6)は、景観の異なる3種類の代表的な三角州を描いたものである。

これらの三角州のうち、水分中の土砂含有率が最も多い河川で形成されたと考えられるもの及び、沿岸流の影響をほとんど受けていないと考えられるものはどれか、正しい組み合わせを①~⑩から一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[24])

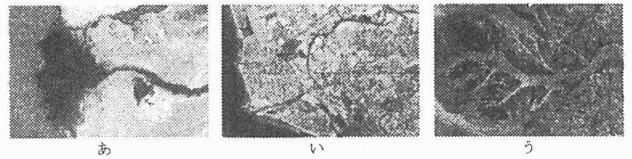


図6

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
土砂含有率最多の河川	あ	あ	あ	い	い	う	う	う	う
沿岸流の影響が最小	あ	い	う	あ	い	う	あ	い	う

問4 下線部(c)について、次の写真(図7)は、広島市中心部市街地が浸水しないように、可動式の堰(せき)が建設された部分の写真である。この堰は、次ページの地図(図8)のどの部分に建設すると、河川氾濫時の市内への影響を最小限に抑えることができるか、①~⑩から一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[25])

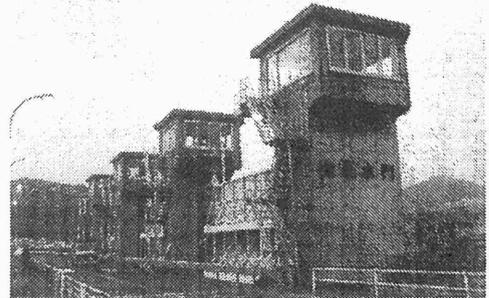
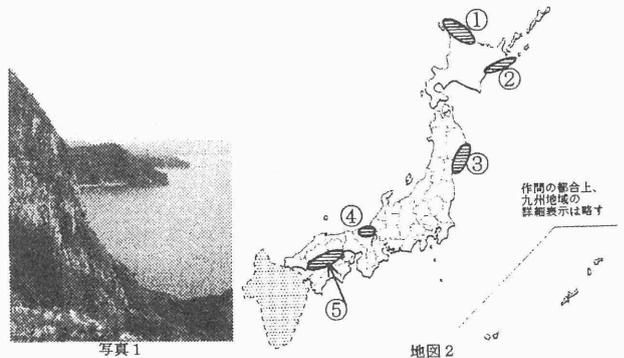


図7

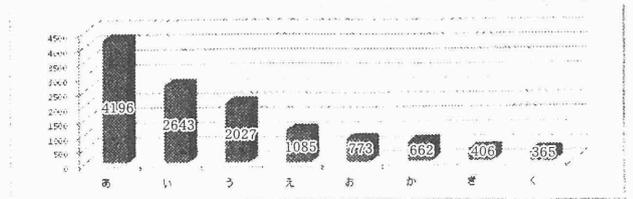
[3] 海岸の地形について、次の問いに答えよ。

問1 次の写真1は、長崎市郊外の外海地区で撮影した景観である。

これと同じ原理で形成された地形が発達する地域として、適切ではないものを地図2から一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[26])



問2 次のグラフ3は、九州各県の海岸線の総延長を示したものである。このうち、長崎県と佐賀県の総延長を示したものはどれか、①~⑯から一つ記号で選べ。(解答欄[27])



グラフ3

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
長崎県	あ	い	う	え	あ	い	う	え	あ	い	う	え	あ	い	う	え
佐賀県	お	お	お	お	か	か	か	か	き	き	き	き	く	く	く	く



図8

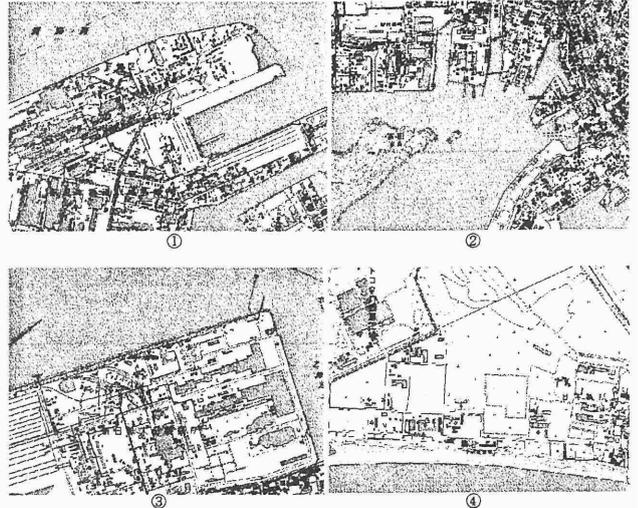
問3 次の写真4は、茨城県にある日本有数の鹿嶋工業地域である。次の問いに答えよ。
1. この工業地域が立地する地域の地形について説明した文①～④のうち、正しく説明されているものを一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[28])



写真4

- ①この地域は、沖合に遠浅の海岸が広がり、工業地域もかつての海底が隆起した部分に立地している。
- ②この地域は、かつての氾濫原が沈水した部分であり、工業地域は洪水を防ぐための堤防が築かれている。
- ③この地域は、三角州上に立地しており、工業地域は堆積した砂地を整備して作られたものである。
- ④この地域の工業地帯は、大半を埋め立てて造成したものであり、大きな船舶が入港しやすいよう、水深の深い地理的条件の場所が選ばれている。

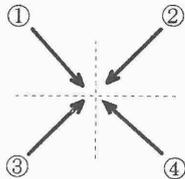
2. 次の写真①～④のなかから、写真4と同じ地形に立地した工業地域を示したものを一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[29])



問4 次のページの地形図(図5)は、宮崎県の海岸線沿いを示したものである。次の各問に答えよ。

- 1. 次のページの地形図(図5)の地点①～④のなかで、もっとも新しく形成された平野であると考えられるところはどれか、図5から一つ選び記号で答えよ。(解答欄[30])
 - 2. 地形図(図5)の「あ」の部分では、水田地帯となっている。この理由について、正しく説明している文を①～④のなかから一つ選び記号で答えよ。(解答欄[31])
- ①近くに農業研究施設が多数あり、乾燥に強い稲の栽培に成功したため。
 - ②台地上は本来は乏水地であるが、畝水地帯となっており、水の確保が出来たため。
 - ③水田地帯の上の方にため池があり、そこから農業用水を確保できているため。
 - ④このあたりは、日本屈指の多雨地域であり、台地の上でも稲作は可能なため。

3. 「農業大学校」付近の地点「い」周辺は、台風などの風が特に強いことで知られている。「い」の辺りで、特に強く吹く風の向きを示したものを次の①～④から一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[32])



4. 図5中の道路に囲まれた「う」の範囲の面積を求め、最も近いものを次の①～⑦から一つ選べ。ただし、「う」は地図上では1cm×2cmの長方形とする。(解答欄[33])

- ① 0.01 km² ② 0.05 km² ③ 0.1 km² ④ 0.25 km² ⑤ 0.5 km² ⑥ 1.0 km² ⑦ 1.5 km²

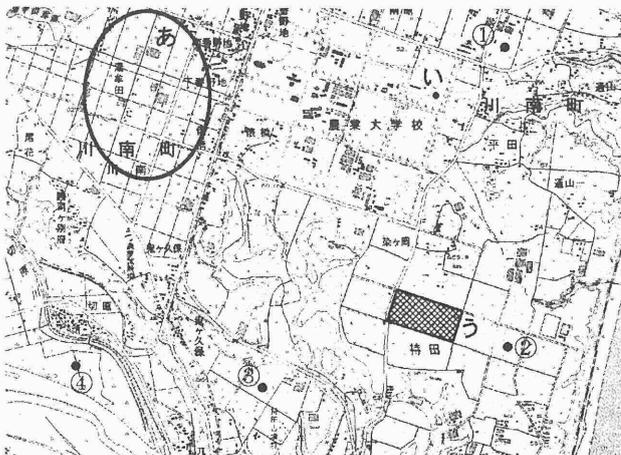


図5

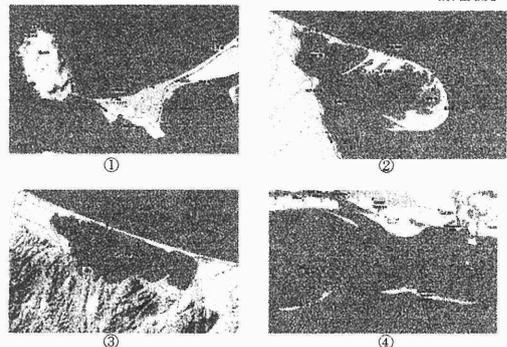
問5 次の写真6は、「天橋立」を撮影したものである。次の問いに答えよ。



写真6

1. 「天橋立」と同じような原理で形成された地形は日本各地にも見られる。次の地図は、そうした地域の例である。このうち、次のa-cの文が説明している地域はどれか、①～⑤からそれぞれ一つずつ選び、各解答欄に記号で答えよ。

- a) この地域は、沿岸流に運搬されてきた砂が堆積して、砂嘴を形成したものである。(解答欄[34])
- b) この地域は、沿岸流によって運ばれてきた砂によって、ラグーンを形成したものである。(解答欄[35])
- c) この地域は、沿岸流によって運ばれてきた砂によって、トンボロを形成したものである。(解答欄[36])



2. 「天橋立」は現在「天の串刺し」と呼ばれるほど、その形が崩れている。その様子は地形図(図7)でも確認することができる。

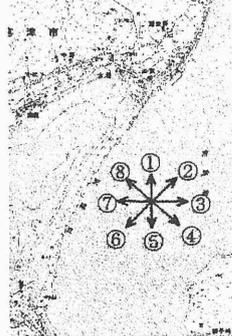
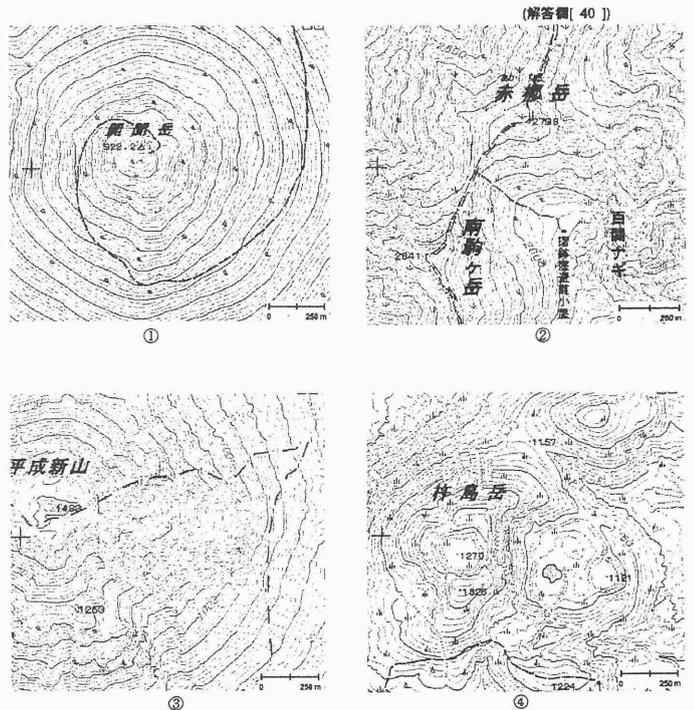


図7

- a) 天橋立の沖合を流れる沿岸流は①～⑧のどの向きへ流れていると考えることができるか、最も近いものを図7中の選択肢から一つ選び、記号で答えよ(解答欄[37])。
- b) 天橋立が細くなってきた原因の一つについて、もっとも正しく述べているものを①～④から一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[38])
- ① 地球温暖化による海水面上昇で、天橋立が沈んでしまったから。
 - ② 良質な砂を天橋立から採りすぎってしまったため。
 - ③ 観光客がたくさん砂を持ち帰ってしまったり、踏み荒らししたため。
 - ④ 護岸工事などで、上流から運ばれる砂の供給が激減したため。
- c) 天橋立の保全対策として考えられるものとして誤っているものを、①～④から一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[39])
- ① 護岸工事によって、天橋立自体の侵食を防ぐ
 - ② 天橋立のある近くの海に大量の砂を供給して、砂で天橋立を再形成させる
 - ③ 天橋立付近を流れる海流をかわすために、海流のある上流部に防衛堤を築く
 - ④ 天橋立の侵食を防ぐため、天橋立の上に、植林をして根を張らせる

[4] 氷河によって形成される地形について以下の問に答えよ。

問1 次の①～④の地形図のうち、カールがみられるもの一つ選びなさい。



(解答欄[40])

問4 次の地図中のA地域ではフィヨルドがみられるが、B地域ではそれがみられない。

1. その理由について述べた文として、最も適当なものを次の①～④のなかから一つ選びなさい。(解答欄[43])
- ① A地域は氷河による侵食作用であるのに対し、B地域は河川による侵食作用によって形成された地形がそれぞれ離水してできたため。
 - ② A地域は氷河による侵食作用であるのに対し、B地域は河川による侵食作用によって形成された地形がそれぞれ沈水してできたため。
 - ③ A地域は河川による侵食作用であるのに対し、B地域は氷河による侵食作用によって形成された地形がそれぞれ離水してできたため。
 - ④ A地域は河川による侵食作用であるのに対し、B地域は氷河による侵食作用によって形成された地形がそれぞれ沈水してできたため。



2. Bの地域で見られる地形の語源となった地域を上地図の①～⑤から一つ選び、記号で答えよ。(解答欄[44])

問2 次の写真1, 2は、かつて氷河におおわれていた地域の地面などにみられる傷跡である。この写真について説明した文として、最も適当なものを次の①～④のなかから一つ選びなさい。(解答欄[41])

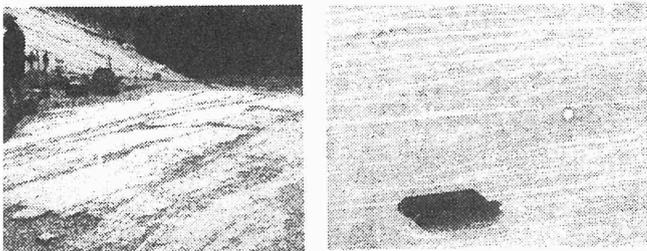
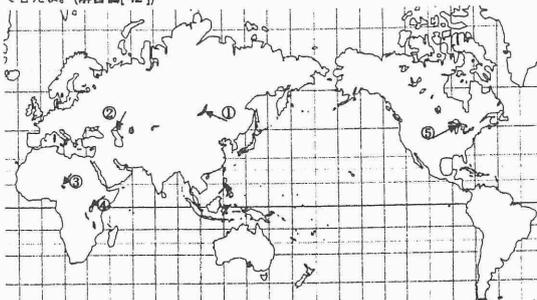


写真1

写真2

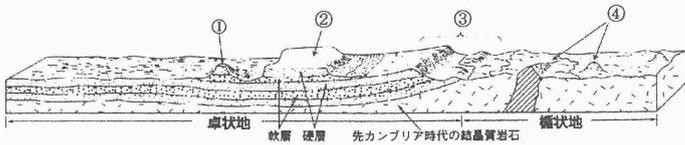
- ① この傷跡は、氷河の侵食によって形成されたU字谷である。
- ② この傷跡は、氷河の重さによって地面にひびが入ったものである。
- ③ この傷跡は、氷河が山の斜面などを動いた際にできたものである。
- ④ この傷跡は、氷河の侵食・運搬作用によって形成されたモレーンである。

問3 次の地図①～⑤のなかで、氷河による侵食によって形成された湖の一つを選び、記号で答えよ。(解答欄[42])



[5] 乾燥地形とカルスト地形について以下の問に答えなさい。

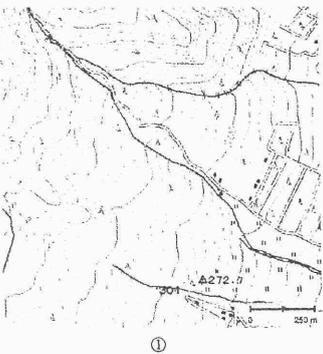
問1 次の写真はオーストラリア中央部にみられるエアーズロック（ウルル）である。この地形は、次の図中の①～④のうち、どの地形に該当するか一つ選びなさい。（解答欄[45]）



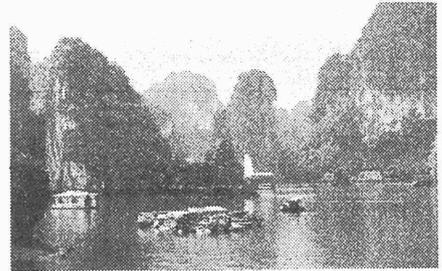
問2 塩湖について述べた次の①～④のうち、誤っているものを一つ選びなさい。（解答欄[46]）

- ①. 降水量よりも蒸発量が多い地域でみられるため、年間を通して降水がみられるアマゾン盆地やコンゴ盆地ではみられない。
- ②. オーストラリアは国土の約60%が乾燥気候であるため、内陸部を中心に数多くみられる。
- ③. ウニ塩湖のように、海底地形が隆起し、陸上に取り残された海水が蒸発することによって形成されたものもみられる。
- ④. 死海のように、海洋に出口を持たない外来河川の流入によって形成されるものもみられる。

問4 次の①～④の地形図のうち、カルスト地形がみられるものを一つ選びなさい。（解答欄[48]）



問3 次の写真は、ベトナム北部に位置するハロン湾である。中国において、この写真と同様の地形がみられる地域として最も適当なものを地図中の①～④のなかから一つ選びなさい。（解答欄[47]）

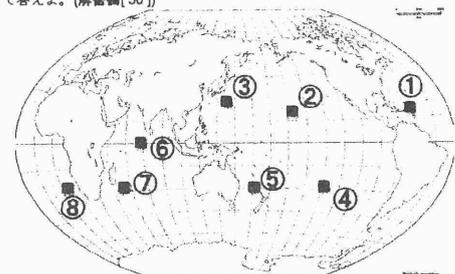


問5 サンゴ礁は、透明度が高く日照条件の良い、水温25～30℃の浅瀬に形成されることが多い。次の地図中のA海域は、オーストラリアのグレートバリアリーフと同緯度に位置しているが、ここではサンゴ礁がみられない。その要因の一つとして考えられるものを次の①～④のなかから一つ選びなさい。（解答欄[49]）



- ① プレートの狭まる境界にあたり、海溝が形成されているため。
- ② 太平洋に流れ込む河川が土砂を多く含んでおり、河口部の透明度が低いため。
- ③ 沖合を暖かい海流（暖流）が流れているため。
- ④ 地球温暖化による白化現象により、サンゴ礁が死滅したため。

問6 南アメリカ沿岸以外にも、サンゴ礁が見られない地域は多くある。次の地図の中から、サンゴ礁が見られるとは考えにくい地域を次の①～⑧から一つ選び、記号で答えよ。（解答欄[50]）



4. 評価問題の結果

各問題別の結果を、以下の表にまとめた。

「問題」…問題の番号
 「階層」…問われることが想定される階層の知識
 * 「知識階層」については別稿(2009b)をご覧ください
 「正解」…各問題の正解
 「正答率」…各問題の正答率

問題	階層	正解	正答率	17	II	5	30.6%	34	II	2	67.2%
1	I	3	85.8%	18	II	3	30.8%	35	II	3	64.4%
2	II	2	29.6%	19	III	1	43.9%	36	II	1	54.1%
3	II	2	62.6%	20	II	4	38.2%	37	IV	6	40.9%
4	IV	8	61.3%	21	III	4	22.5%	38	IV	4	60.1%
5	III	2	32.5%	22	II	5	46.7%	39	IV	3	31.1%
6	II	3	42.9%	23	II	10	10.3%	40	III	2	26.3%
7	IV	3	69.2%	24	IV	9	6.3%	41	III	3	38.2%
8	III	1	57.9%	25	IV	3	29.6%	42	II	5	44.9%
9	IV	1	85.4%	26	III	1	14.9%	43	IV	2	52.6%
10	III	3	45.0%	27	III	13	41.7%	44	I	5	31.8%
11	III	8	31.3%	28	II	1	11.3%	45	II	4	19.0%
12	II	6	78.5%	29	IV	4	10.8%	46	II	4	26.2%
13	II	4	32.6%	30	IV	4	26.5%	47	II	4	40.9%
14	II	2	30.0%	31	III	3	61.3%	48	II	2	77.0%
15	III	4	47.4%	32	III	4	43.9%	49	IV	1	48.2%
16	II	3	43.5%	33	III	3	25.8%	50	IV	8	21.2%

5. 補足説明

本稿は蒼下和敬・宅島大堯・福田正弘が「社会認識の質的な成長をめざす授業の研究(5)～継続的な実践でみた指導法の違いによる学力形成の特徴～」として2010年に発表を計画している研究の基礎資料として発表したものである。

6. 謝辞

本研究では、長崎県内の高等学校の各先生方にご指導やご協力をいただき、実際に多くの生徒の方に参加していただきました。ここに深く感謝の気持ちを示します。

7. 参考文献

- ・ 蒼下和敬・宅島大堯(2009)「知識の階層化でみた大学入試センター試験」二宮書店『地理月報』No.513(2009年9月号)
- ・ 蒼下和敬・福田正弘(2009)「社会認識の質的な成長をめざす授業の研究(2)～高等学校地理における探求型授業の実践～」長崎大学教育学部附属教育実践センター『教育実践総合センター紀要』(第8号)